

第2次ちがさき自転車プランと これまでの取り組みなどについて

ちがさ貴族
えぼし麻呂



「第2次ちがさき自転車プラン」とは

概要

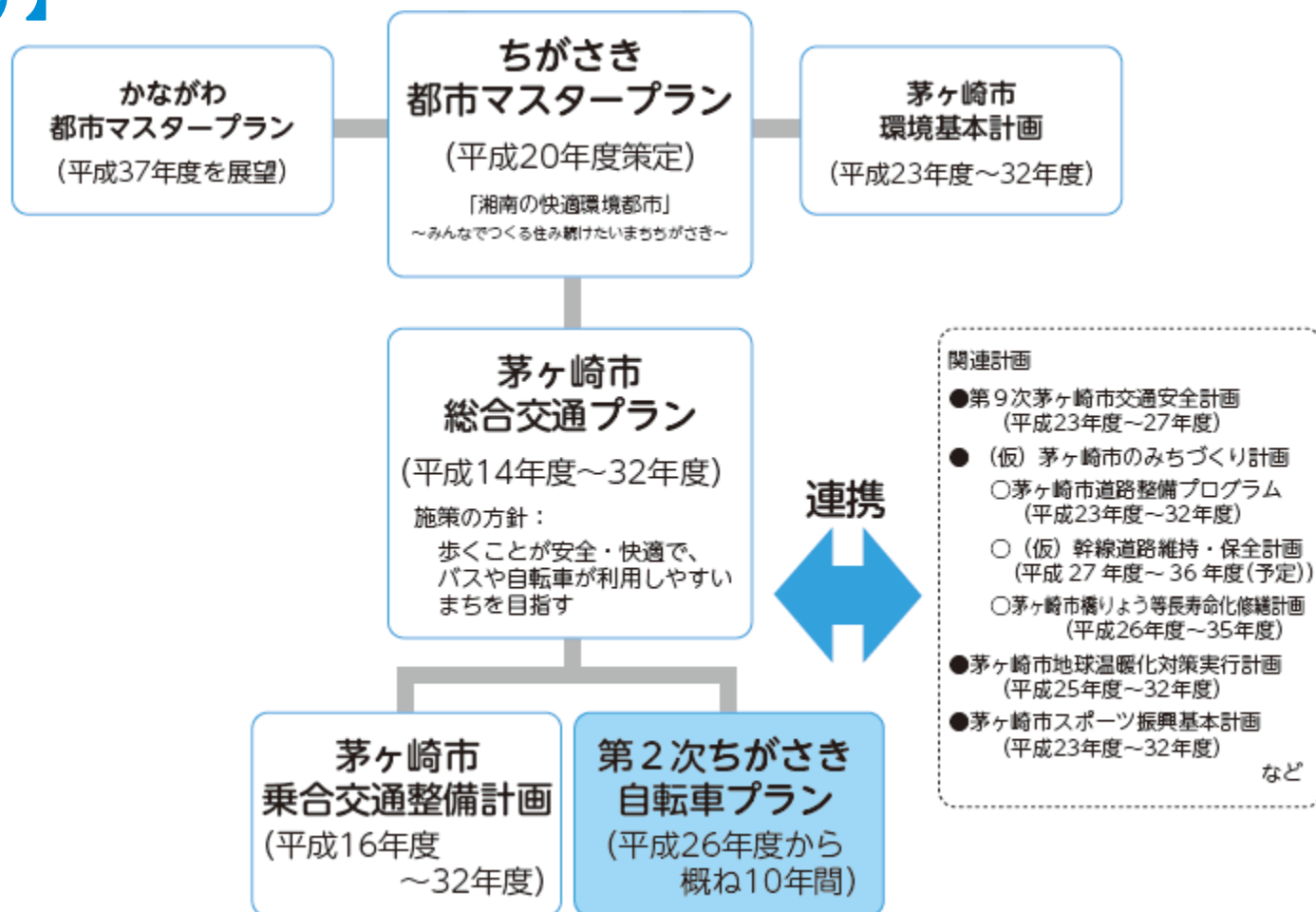
- 平成26年4月策定
- 計画期間は平成26年4月から10年間
- 「人と環境にやさしい自転車のまち茅ヶ崎」を将来都市像とする
- 3つのまちづくりの方向性と10の取組内容が定められている



策定の背景

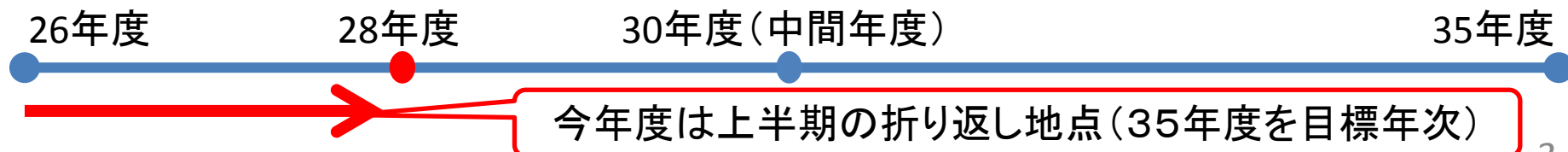
- 市民発意の計画
 - 平成13年に行われた総合交通プランの市民懇話会で、「市民主体の委員会を設置し、自転車総合計画を策定」する提案が出され、「ちがさき自転車プラン」が誕生（平成16年）
 - 当時は、他都市における類似の計画は少なかった
- 自転車利用が盛んなまち
 - 神奈川県内の市区町村の中で最も自転車の利用割合が高い
 - 温暖で平坦でコンパクトなまちであり、自転車を利用しやすい
 - 神奈川県より、自転車事故多発地域に指定されている
- 近年の社会的な風潮
 - 震災以降、環境面だけでなく、端末交通手段としての自転車の価値が見直されている
 - 「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」（国土交通省、警察庁）が定められるなど、社会的な風潮

【位置付け】



【計画期間】

※前プランの計画期間は、16年度～25年度



おもいやりの人づくり
(自転車の利用ルールの周知徹底)



風を感じる空間づくり
(自転車の走行空間・駐輪場の確保)



暮らしを楽しむ仕組みづくり
(自転車の有効活用・利用促進)



○歩行者等、自転車、自動車がお互いに
“おもいやり”をもって、限られた空間を譲り合う

⇒おもいやりの精神を育むことにより自発的に交通ルールを守る取り組みを展開

⇒あわせて啓発活動なども関係機関と協働で実施

○誰もが安全・安心で、ストレスを感じることなく移動できる環境の整備

⇒歩行者等、自転車、バスなどの公共交通を優先し、自転車の走行環境を確保

⇒自転車ネットワークの整備

⇒誰もが利用しやすい駐輪場の提供・整備

○自転車を楽しむ市民や、自転車でまちを回遊する来街者を増やし、まちの活性化を図る

⇒「人と環境にやさしい 自転車のまち 茅ヶ崎」を広くPR

⇒自転車を活用したライフスタイルを提案

【総合指標】

市内を自転車で移動する際の満足度

33%(平成25年)

⇒40%(5年後) ⇒**50%**(10年後)

「原則車道走行」を守っている割合

29%(平成25年)

⇒60%(5年後) ⇒**80%**(10年後)

【まちづくりの方向性ごとの指標】

おもいやりの人づくり
(自転車の利用ルールの周知徹底)



風を感じる空間づくり
(自転車の走行空間・駐輪場の確保)



暮らしを楽しむ仕組みづくり
(自転車の有効活用・利用促進)



実施指標

●交通安全教室受講者数

16,992人(平成24年)

⇒約18,000人(5年後)

⇒**約19,000人**(10年後)

●法定外路面標示などの整備延長

1.5km(平成25年12月)

⇒約15km(5年後)

⇒**約30km**(10年後)

●自転車の有効活用・利用促進施策の取り組み回数

0回(平成25年度)

⇒2回以上/年(5年後)

⇒**2回以上/年**(10年後)

成果指標

●全交通人身事故のうち自転車事故件数に関する満足度

313件(平成24年度) 22%(平成25年度)

⇒約280件(5年後) ⇒30%(5年後)

⇒約250件(10年後) ⇒35%(10年後)

●自転車の走りやすさに関する満足度

313件(平成24年度) 22%(平成25年度)

⇒約280件(5年後) ⇒30%(5年後)

⇒約250件(10年後) ⇒35%(10年後)

●自転車が走行しやすい道路の整備に関する満足度

22%(平成25年度)

⇒30%(5年後)

⇒35%(10年後)

●「健康増進・体力づくり」での利用割合

8%(平成25年度)

⇒15%(5年後)

⇒20%(10年後)

●「趣味・レジャー」での利用割合

24%(平成25年度)

⇒30%(5年後)

⇒35%(10年後)

「第2次ちがさき自転車プラン」の実施内容

将来都市像

人と環境にやさしい 自転車のまち 茅ヶ崎

～人を思い 風を感じ 暮らしを楽しむ 人・自転車を優先するまち～

まちづくりの方向性

おもいやりの人づくり
(自転車の利用ルールの周知徹底)



風を感じる空間づくり
(自転車の走行空間・駐輪場の確保)



暮らしを楽しむ仕組みづくり
(自転車の有効活用・利用促進)



取り組み内容

市民
事業者
国・県・市

主要な取り組み

(重点) 自転車利用ルールの周知徹底

● ● ●

【拡充】 すき間のない交通安全教育の実施

【拡充】 地域、関係団体との協働による啓発活動

(重点) 他者への“おもいやり”精神の醸成

● ● ●

【新規】 段階的かつ体系的で、地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進

【新規】 市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動

(重点) 自動車ドライバーへの啓発

● ● ●

【新規】 自動車ドライバーへの自転車の車道走行などに関する啓発活動

(重点) 自転車走行空間の整備

● ● ●

【拡充】 自転車ネットワーク計画づくり

【拡充】 自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保

【継続】 既存道路の整備・改善(道路空間の再配分)

【拡充】 自動車走行速度の抑制

利用しやすい駐輪場の確保

● ● ●

【拡充】 利用しやすい駐輪場の整備・運営

放置自転車の解消

● ● ●

【継続】 自転車放置禁止区域の見直し・啓発活動

自転車をシェアするシステムの検討・実施

● ● ●

【拡充】 レンタサイクルシステムの促進

自転車利用による健康づくり

● ● ●

【新規】 健康づくりに着目した自転車利用促進

(重点) 「自転車のまち 茅ヶ崎」のPR

● ● ●

【継続】 ホームページやイベントでの情報発信、看板設置

【新規】 (仮称) サイクルステーション設置の検討

【新規】 自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など

【新規】 ブランドマークの創出による一体的な取り組みの推進

公共交通機関との連携

● ● ●

【継続】 公共交通との乗り継ぎ利便性の向上

【継続】 公共交通機関への自転車の持ち込みの普及

人・自転車を優先したまちづくりによる生活の質の向上

最近の取り組みについて(抜粋)
～平成28年度事業を中心に～

1 おもいやりの人づくり ～自転車の利用ルールの周知徹底～

【拡充】すき間のない交通安全教育の実施

【拡充】地域、関係団体との協働による啓発活動

【新規】段階的かつ体系的で、地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進

【新規】市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動

【新規】自動車ドライバーへの自転車の車道走行などに関する啓発活動



「自転車利用ルールの周知徹底」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
すき間のない 交通安全教育の実施	自転車安全利用五則の周知徹底など 自転車利用教育の推進	交通安全教育の充実【②】		
	新たな啓発事業の検討や モデル事業の実施	新たな啓発事業などの検討・実施【③】		
	自転車運転免許証などの 検討	免許証制度等に関する検討		導入の検討



(左)オリジナル
「自転車止まれ」
ステッカーを貼る
ようす【①】



(右)自転車ル
ール講習会【③】

主な取り組み

- オリジナル「自転車止まれ」ステッカー大作戦！(西浜小学校4年生、地域と協働で実施)(都市政策課)【①】
- 交通安全教育(保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、事業所、高齢者向けに実施)(茅ヶ崎市交通安全対策協議会)【②】
- 自転車ルール講習会(5月29日)(茅ヶ崎市交通安全対策協議会)【③】
- 各季の全国交通安全運動街頭キャンペーン(茅ヶ崎市交通安全対策協議会)【④】
- 交通安全・防犯市民総ぐるみ運動推進大会(10月21日実施)(茅ヶ崎市交通安全対策協議会)【⑤】
- 無灯火撲滅キャンペーン等の啓発活動(随時実施)(茅ヶ崎地区交通安全協会、茅ヶ崎警察署、安全対策課等)【⑥】

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
地域、関係団体との 協働による啓発活動	地域ぐるみの イベント・街頭啓発活動の実施	自転車利用ルールの啓発活動の実施【④】		
	転入者への 交通安全リーフレットの配付など	リーフレットの配付などによる啓発活動の実施【⑤】		
	啓発活動の拡充	啓発活動の実施		
	自転車利用ルールの周知・啓発に 係る新たな手法の検討	手法の検討	試行・実施【⑥】	



(左)秋の全国交通安全運
動街頭キャンペーン【④】

(右)無灯火自転車撲滅
キャンペーン【⑥】



今後の取り組み予定

- オリジナル「自転車止まれ」ステッカー大作戦！は、小学校校長会から指定をされた順に、年1校実施
- 交通安全教育の未実施団体への働きかけ及び実施回数拡大
- 地域と連携した取り組み(自転車走行デモンストレーションなど)を実施
- その他、引き続き各種啓発活動等を継続するとともに、新たな事業を検討する

オリジナル「自転車止まれ」ステッカー大作戦！

オリジナル「自転車止まれ」ステッカー大作戦！とは

子どもが、授業の中でまちあるきをして調査した、自転車に乗るうえで危険だと思う交差点に、子どもがデザインをしたステッカーを自分たちの手で道路に貼ることによって、危険な交差点を認識していただき、日頃の自転車の乗り方を見直してもらうことを目的とした事業です。

市内の自転車事故や
自転車の利用ルール
について学ぶ



学区内を歩き、自転車に
乗るうえで危険な交差点
を調査する



自転車の一旦停止を
促すステッカーを描く



地域の人と協力し、
ステッカーを貼る



これまでの実施校

平成22年度	梅田小学校	(4年生)
	浜須賀小学校	(3年生)
平成23年度	香川小学校	(4年生)
平成25年度	小和田小学校	(3年生)
平成26年度	汐見台小学校	(3年生)
平成27年度	鶴嶺小学校	(4年生)
平成28年度	西浜小学校	(4年生)

今後の方向性

- より効果的な事業の実施方法の検討
- 標示方法の見直し

効果

- 子どもが、楽しみながら主体的に自転車ルールを学び、且つ活動がまちに残ることにより、誇りをもってルールを守ることができるようになります。そして、子どもが主体的に、地域にむけて自分たちの活動及び交差点での一時停止の重要性を発信できるようになりました。
- 子どもの取り組みを軸にすることで、地域の大人にも高い関心をもっていただくことができました。



「他者への“おもいやり”精神の醸成に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
段階的かつ体系的で、 地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進	学校などでの 自転車交通安全教室の再検討	段階的・体系的な方策の拡大可能性の検討		
	学校教育と連携した 家庭教育の支援の検討	教材の作成等	教材等を活用した支援の検討	
	親子交通安全教室の検討	交通安全教育の充実		
市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動	市民の“おもいやり”精神を 育む方法の検討	活動の検討	活動の実施	
	市民の心に訴える 啓発の検討	市民の心に訴える啓発活動の検討・実施【①】		

「自動車ドライバーへの啓発」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
自動車ドライバーへの 自転車の車道走行など に関する啓発活動	ドライバー向け啓発ポスターや 啓発看板の設置の検討	啓発方法の検討	啓発活動の実施	
	ドライバーが集まる機会を捉えた 啓発活動の検討			啓発方法の検討【②】



(左)交通安全・防犯市民総ぐるみ運動推進大会において表彰されるようす【①】

主な取り組み

- 交通安全・防犯市民総ぐるみ運動推進大会において、ポスター・標語を募集し、表彰(10月21日実施)(茅ヶ崎市交通安全対策協議会)【①】
- 高齢者ドライバーを対象に安全な自動車の乗り方を講習する「シルバーセーフティドライビングスクール」の中で、自転車の安全な乗り方も講習(茅ヶ崎市交通安全対策協議会、京急茅ヶ崎自動車学校)【②】

今後の取り組み予定

- 継続実施

現状認識 まちづくりの方向性① 「おもいやりの人づくり」

【現状】

- 市内の自転車に関連する事故件数は、平成24年比で半減しており、大きく減少（313件（24年）→160件（27年））
- 交通安全教室受講者数は、平成24年比で14%増と受講実績を増やしている（16,992人（24年）→19,314人（27年））※計画上の目標値は19,000人

【課題】

- 超高齢社会の進展に伴い、高齢者のドライバーに対する配慮がより求められる。
- 家庭教育への支援などの領域にどのように働きかけていくか。
- 「他者への“おもいやり精神”の醸成」のための事業展開の必要性及び他分野との連携可能性の検討。 など

2 風を感じる空間づくり ～自転車の走行空間・駐輪場の確保～

【拡充】自転車ネットワーク計画づくり

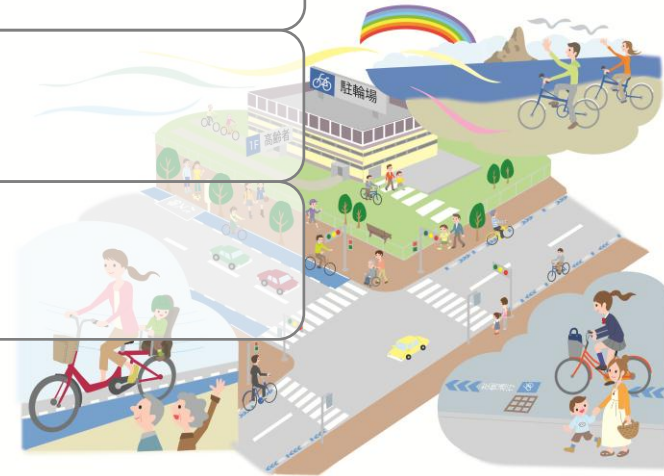
【拡充】自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保

【継続】既存道路の整備・改善（道路空間の再配分）

【拡充】自動車走行速度の抑制

【拡充】利用しやすい駐輪場の整備・運営

【継続】自転車放置禁止区域の見直し・啓発活動



「自転車走行空間の整備」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
自転車ネットワーク計画づくり	自転車ネットワーク計画の策定	計画策定		
自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保	自転車専用レーンや法定外路面標示、看板を活用した道路環境整備	道路の修善などに合わせた整備	【①】	
既存道路の整備・改善 (道路空間の再配分)	既存道路における自転車に配慮した整備・改善（道路空間の再配分など）		【②】	
	路面を平らにするための整備や段差の解消など		【③】	
自動車走行速度の抑制	一方通行化、ゾーン30など一般車両の走行速度抑制策の検討	ネットワーク計画などに応じた段階的な整備		
	イメージハンプなどの道路づくりによる一般車両の走行速度抑制策の検討	規制による走行速度抑制策の検討【④】		
		道路づくりによる走行速度抑制策の検討・実施		



(左)鉄砲道の一中通りから学園通りまでの約1.5kmに整備された、自転車専用レーン等
平成28年3月供用開始【①】



(右)左富士通りの浜見平北口から浜見平交番前まで約420mに整備された、法定外路面標示
平成28年7月検査完了【②】

主な取り組み

- 自転車走行空間整備
 - 鉄砲道(都市政策課、道路管理課)【①】
 - 左富士通り(拠点整備課)【②】
 - 鶴嶺通り(道路建設課)【③】
- いずれも一部区間
- ゾーン30の検討(茅ヶ崎警察署、安全対策課)【④】

今後の取り組み予定

- 自転車走行空間を整備(鉄砲道)
 - ※ すでに一部区間において実施済み
- 「茅ヶ崎市幹線道路維持保全計画自転車ネットワーク計画」に基づき、自転車走行空間を整備(鉄砲道を含む)
- 茅ヶ崎駅南口駅前広場改修にあわせた自転車走行空間を整備

自転車走行空間整備

自転車走行空間整備とは

歩行者、自転車、自動車が安全で快適に移動できるよう、自転車利用者の通行区分を明示するものです。本市では、平成21年度より、市内各路線への設置を行っています。平成27年3月に「幹線道路維持保全計画 自転車ネットワーク計画」を策定し、10年間で30kmの整備を目指しています。

これまでの実績

- 社会実験及び計画策定
 - ・ ちがさき法定外路面標示有効活用社会実験(平成24年度)
 - ・ 幹線道路維持保全計画自転車ネットワーク計画の策定(平成26年度)
- 自転車専用レーン及び法定外路面標示を設置している路線
 - ・ 国道1号(新栄町交差点～鳥井戸橋東側)
 - ・ 県道45号(飯島歩道橋交差点～茅ヶ崎中央インター交差点)
 - ・ 鉄砲道(一中通り～学園通り)
- 法定外路面標示を設置している路線
 - ・ 左富士通り(浜見平北口交差点～浜見平入口交差点)
 - ・ 赤松通り(一部区間)
 - ・ 香川小学校通り(一部区間)
 - ・ 農協前の通り(エメロード～新栄町交差点)
 - ・ 鶴嶺通り(一部区間)



効果(鉄砲道)

- 鉄砲道
 - ・ 一中通りから学園通りまでの約1.5km
 - ・ 平成28年3月23日に供用開始
 - ・ 自転車に関係する事故や、路上駐車が減少し、自転車の走行環境が向上している

【自転車に関係する事故数について】

	平成27年	平成28年
1/1～3/22	6件	2件
3/23～8/31		1件

「利用しやすい駐輪場の確保」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
利用しやすい駐輪場の 整備・運営	駐輪需要に応じた駐輪場の整備	駐輪需要の把握及び需要に応じた整備等の検討【①】 【②】		
	駐輪場利用の適正化に向けた検討	駐輪需要の把握及び適正化に向けた検討【③】		
	高齢者や障害者、子ども連れ利用者に配慮したサービスの検討	市民ニーズに応じた新たなサービスの検討・実施【④】		
	「のきさき駐輪場」など買い物客向け駐輪場の整備の促進	買い物客向け駐輪場の整備の促進【⑤】		

「放置自転車の解消」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
自転車放置禁止区域の 見直し・啓発活動	自転車放置対策の啓発活動の実施	自転車放置台数削減に向けた啓発活動の実施		
	自転車放置禁止区域の見直し	必要に応じ区域の見直し【⑥】		

主な取り組み

- 共惠及び幸町第二自転車駐車場のラック増設(安全対策課、茅ヶ崎市シルバー人材センター)【①】
- 北茅ヶ崎臨時自転車置場の整備の検討(安全対策課)【②】
- 安全で使いやすい自転車駐車場実現のために毎月モニタリングを実施(安全対策課、茅ヶ崎市シルバー人材センター)【③】
- 新栄町第二自転車駐車場3階ラックの利用改善(大型車両等駐車スペースの拡張)(安全対策課、茅ヶ崎市シルバー人材センター)【④】
- 鉄砲道への自転車ポートの設置(街路樹リニューアルにあわせて実施)(景観みどり課)【⑤】
- 自転車放置禁止区域の拡大(安全対策課)【⑥】

今後の取り組み予定

- 市営自転車駐車場の利用状況等から、施設整備やさらなるサービスの向上にむけて、指定管理者と連携し、市営自転車駐車場の過不足を検証
- 継続して、北茅ヶ崎臨時自転車置場の整備の方向性を検討
- 駅周辺の自転車駐車場の状況を調査し、民間の整備を推進

現状認識 まちづくりの方向性② 「風を感じる空間づくり」

【現状】

- 平成27年3月に「幹線道路維持保全計画」の「自転車ネットワーク計画」を策定。現在は、計画に基づいて、各路線の整備を進めている。
- 市内の自転車走行空間の総整備延長 約6.8km
 - ※計画上の目標値は30.0km（約23%）
 - ※国道・県道を含む

【課題】

- 先ずは、幹線道路における自転車走行空間の整備が急がれる。
- 本市の地勢を考慮すると、細街路における自転車走行空間整備についての考え方を並行して整理する必要がある。
など

暮らしを楽しむ仕組みづくり

～自転車の有効活用・利用促進～

【拡充】レンタサイクルシステムの促進

【新規】健康づくりに着目した自転車利用促進

【継続】ホームページやイベントでの情報発信、看板設置

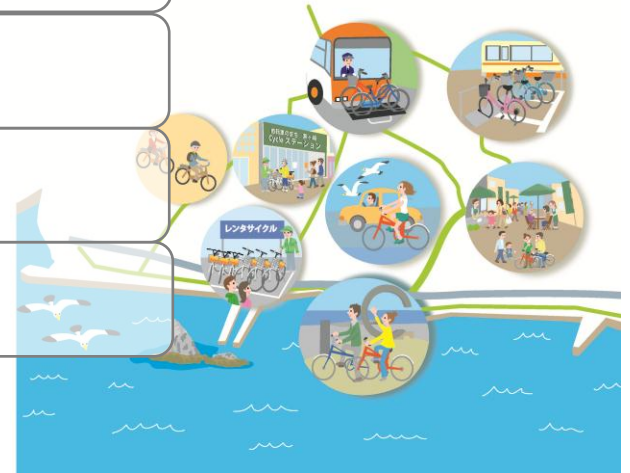
【新規】（仮称）サイクルステーション設置の検討

【新規】自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など

【新規】ブランドマークの創出による一体的な取り組みの推進

【継続】公共交通との乗り継ぎ利便性の向上

【継続】公共交通機関への自転車の持ち込みの普及



暮らしを楽しむ仕組みづくり

「自転車をシェアするシステムの検討・実施」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
レンタサイクルシステムの促進	既存のレンタサイクルシステムの利用促進	利用促進策の検討・実施【②】		
	自転車の一括貸し出しによる「茅ヶ崎方式レンタサイクル」の事業化の検討	事業化に向けた検討		
	新たなレンタサイクルシステムの検討及び社会実験の実施	システムの検討	新システムの導入等【①】 【②】	
	広域コミュニティサイクルの導入に向けた検討	導入に向けた検討		

「自転車利用による健康づくり」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
健康づくりに着目した自転車利用促進	健康づくりをPRしたエコ通勤の推進	推進施策の検討・実施		
	健康づくりに着目した自転車利用促進の検討	利用促進策の検討・実施		



(右)「茅ヶ崎レンタサイクル」の車両【①】

主な取り組み

- 「茅ヶ崎レンタサイクル」の実施及び利用実態調査(都市政策課、茅ヶ崎市観光協会)【①】
- 貸出情報一元化システムの導入にむけた検討・協議(都市政策課、茅ヶ崎市観光協会、茅ヶ崎市商店会連合会)【②】

今後の取り組み予定

- 貸出情報一元化システムの導入
- 自転車回遊コースづくり

シェアサイクル事業

「茅ヶ崎市のシェアサイクル推進に係る基本的な考え方」の策定（平成28年3月）

これまで以上に関係者が力をあわせて、自転車を軸に魅力的な資源・事業等をつなぎあわせることで相乗効果を図り、効率的かつ効果的に事業を推進するために策定しました。このプランでは、過去の社会実験結果や協議会の提案をうけ、今後の取り組みの方向性と具体的な事業内容についてまとめています。

シェアサイクルの定義

本市では、「1台の自転車を複数人でシェアするシステム、且つ情報を集約してシェアするシステム」を備えている状態」と定義しています。

【参考】従来の定義

- ・ レンタサイクル: 借りたポートに返すしくみで、1人の利用者が長時間占有する。
- ・ コミュニティサイクル: 1台の自転車を、短時間で、複数人が共有する。乗り捨て可能。
- ・ シェアサイクル: 上記2つの総称。

過去の社会実験の課題

- 情報が分散している
- ニーズのある茅ヶ崎駅南口近くに、まとまったまとまった土地を用意できない
- 本格運用ができない体制・事業性を確保できていない
- 需要喚起ができていない

プランがめざすところ

「人と魅力ある茅ヶ崎の資源を自転車でつなぎ、特別な時間を提供する」こと、そして「女性の自転車利用促進によるまちの魅力アップ」を目的とし、次の方向性のもと、各事業を展開します。

生の情報を集め結びつけ「楽しめることの確実性」を確保

茅ヶ崎に合ったスタイルのレンタサイクルを採用

- 人と魅力ある茅ヶ崎の資源を自転車でつなぎ、特別な時間を提供する
- 女性の自転車利用によるまちの魅力アップ

情報の一体的な発信・PR

持続可能な体制を整え関係者が連携して推進

質の高いサービス・ブランドの確立

シェアサイクル事業

茅ヶ崎レンタサイクル

● 概要

- 【貸出手続】JR茅ヶ崎駅改札横の観光案内所
- 【ポート】湘南ステーションビル(株)ラスカ茅ヶ崎の南側自転車駐車場内事業用地
- 【貸出台数】5台
- 【貸出時間】4～9月 9～18時、10～3月 10～18時
- 【料 金】1日1回500円 ※その他デポジット料金有

● 実施主及び協力

- 【実施主体】一般社団法人茅ヶ崎市観光協会、茅ヶ崎市
- 【協 力】神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部、株式会社ミヤタサイクル、公益社団法人茅ヶ崎市シルバー人材センター、茅ヶ崎市商店会連合会、湘南ステーションビル株式会社



(上)「茅ヶ崎レンタサイクル」の車両(アロハ号)

(右)(一社)茅ヶ崎市観光協会が発行した、レンタサイクルでめぐるができるお店などが紹介された「ことりっぷ 茅ヶ崎」

事業の詳細は、資料4-2を参照

「自転車のまち 茅ヶ崎」のPRに関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
ホームページやイベントでの情報発信、看板設置	既存のホームページを活用した「自転車のまち 茅ヶ崎」のPRや自転車利用促進策の検討	PR方法などの検討・実施		
	様々なイベントでの広報活動の検討	様々なイベントでの広報活動の実施【①】		
(仮称)サイクルステーション設置の検討	サイクルステーションの設置の検討	サイクルステーション設置に関する検討【②】		



(左)ちがさきヴェロ・フェスティバル自転車祭で行われた、第5回ちがさきクリテリウムのような【①】

主な取り組み

- 「ちがさきヴェロ・フェスティバル自転車祭」の開催(都市政策課)【①】
- (仮称)柳島スポーツ公園整備事業の一環として、サイクルステーションの事業内容の検討(事業者による)(スポーツ健康課)【②】

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など	広報ちがさきや既存ホームページなどでの自転車を活用したライフスタイルの提案	提案するライフスタイルの検討		
	各種メディアと連携した自転車、茅ヶ崎市の魅力の発信	ライフスタイルの提案を通じた広報の実施		
	自転車の点検・整備の促進	自転車の点検・整備の促進に向けた啓発活動の実施		
	自転車への施錠の徹底、ダブル施錠の実践など防犯対策の促進	防犯対策の促進に向けた啓発活動の実施		
ブランドマークの創出による一体的な取り組みの推進	ブランドマークの創出の検討	ブランドマークの検討・製作・活用		

今後の取り組み予定

- (仮称)柳島スポーツ公園、平成30年3月開業予定

ちがさきヴェロ・フェスティバル自転車祭

ちがさきヴェロ・フェスティバル自転車祭 とは

【目的】

- ・ 「自転車のまち茅ヶ崎」のPR
- ・ 自転車の楽しさや安全利用ルールの発信
- ・ 本市出身のプロサイクリスト、別府史之選手との交流

【概要】

- ・ 平成24年度より、年1回ずつ茅ヶ崎中央公園にて開催しており、平成28年10月30日で5回目を迎えた
- ・ イベントの目玉は、別府選手らが公園外周道路を勢よく走り抜ける「ちがさきクリテリウム」(模擬レース)

主なプログラム(平成28年10月30日開催実績)

- ・ ちがさきクリテリウム (別府選手と招待選手のレース)
- ・ Fumyと走るちがさきライド (別府選手とのツーリング)
- ・ キッズ自転車競走 (子どもによる園内レース)
- ・ ちがさきサイクルフォトライド (自転車で市内をめぐりチェックポイントで写真を撮影し、参加者で得点を競う)
- ・ ちがさきサイクリストグランプリ (自転車障害物競走)
- ・ サイクルジャージコンテスト (オリジナルジャージの人気投票)
- ・ ちがさきこども絵画ぬり絵展 (市内約600人の保育園5歳児のぬりえの事前実施および当日展示)
- ・ 安全利用啓発ブース (ヒヤリハットマップやルールクイズの実施、市内の自転車走行空間の体験走行等)
- ・ 無料自転車点検、自転車関連ブース(自転車商協同組合による自転車の無料点検や、自転車メーカーの自転車試乗会など)
- ・ ちがさき風おばけやしき
- ・ ちがさき屋台村 (茅ヶ崎の美味しいものが大集合)

(左)ちがさきクリテリウムで選手が走るようす

(右)「キッズ自転車競走」がはじまるようす

別府 史之(べっふ ふみゆき)選手

- ・ トレック・セガフレード所属
- ・ 1983年4月10日神奈川県茅ヶ崎市生まれ
- ・ 2005年UCIプロデビュー
- ・ 2008年アジアチャンピオン
- ・ 2009年ツールドフランスを日本人で初めて完走。北京、ロンドンオリンピック日本代表
- ・ 日本人で唯一5度のジロディタリア完走や5大クラシック全完走を達成



ちがさきヴェロ・フェスティバル実行委員会

- 【委員長】 関谷 達朗 (茅ヶ崎商工会議所青年部、らーめん 達)
- 【副委員長】 新谷 雅之 ((一社)茅ヶ崎市観光協会)
- 【事務局】 雨宮 雅代(神奈川県マウンテンバイク協会)
- 【委員】 別府 始((有)ブルーフォート)、成田 有輝(くりむ(株))、澤邑ゆき(アウトブレイン(株))、米谷 麗子((株)J;COM湘南)、鈴木 健太郎((株)タウンニュース)、須藤 伸((有)丸幸商事)、熊澤 博樹(海岸清掃団体 湘南ウキブイ)、益田 和子(ちがさき自転車プラン・アクション22)、嵯峨野 貴央((株)サガノ)、海老名健太郎、小川裕暉
- 【協賛】(株)ジェイコム湘南、Zwift Japan、(株)シマノ、(株)ChampionSystemJapan、トレック・ジャパン(株)、(株)ミヤタサイクル、(株)ジェイ・スポーツ、オークリー・ジャパン(株)、(株)和光ケミカル、茅ヶ崎湘南ロータリークラブ、稲岡ハウジング(株)、(株)河内屋、亀井工業(株) など
- 【協力】自転車商協同組合茅ヶ崎寒川支部、こどもぬりえ絵画展 など
- 【後援】茅ヶ崎商工会議所、茅ヶ崎市商店会連合会、(一社)茅ヶ崎市観光協会 など
- 【共催】 茅ヶ崎市 ※ 順不同



「公共交通との連携」に関するスケジュール

主要な取り組み	事業	短期 (1～2年)	中期 (3～5年)	長期 (6～10年)
公共交通との乗り継ぎ 利便性の向上	鉄道路周辺の駐輪需要に応じた 駐輪場の整備など	駐輪需要の把握及び需要に応じた整備等の検討		
	サイクル&バスライド用ラックの 管理方法の検討	ラックの管理方法の検討 【①】		
	サイクル&バスライドの拡充	需要調査などを通じた拡充の検討 【②】		
公共交通機関への自転 車の持ち込みの普及	鉄道やバスへの正しい自転車の 持ち込み方の発信	正しい自転車の持ち込み方の発信		
	自転車ラックバスの利用促進や 駅舎などでの自転車の分解組立 スペースの整備、サイクルトレイン の導入に向けた検討	交通事業者との調整		



(左)サイクルアンドバスライド
無料自転車駐車場の看板
【①②】



(右)鶴嶺小学校前バス停のサ
イクルアンドバスライド無料自転
車駐車場【①②】

主な取り組み

- ・ サイクルアンドバスライド無料自転車駐車場の
管理(都市政策課、神奈川中央交通株式会
社)【①】
- ・ サイクルアンドバスライド施設の拡充(都市政
策課、神奈川中央交通株式会社)【②】

今後の取り組み予定

- ・ サイクルアンドバスライド無料自転車駐車場の
管理
- ・ 小中島バス停付近及び新田入口バス停のサ
イクルアンドバスライド自転車駐車場の本格
運用の検討

サイクルアンドバスライド無料自転車駐車場

サイクルアンドバスライドとは

自転車でバス停付近の専用駐輪場に行き、バスに乗り換えて目的地へ向かうシステムのことです。茅ヶ崎市では、平成16年度より「サイクルアンドバスライド自転車駐車場」の整備をすすめています。

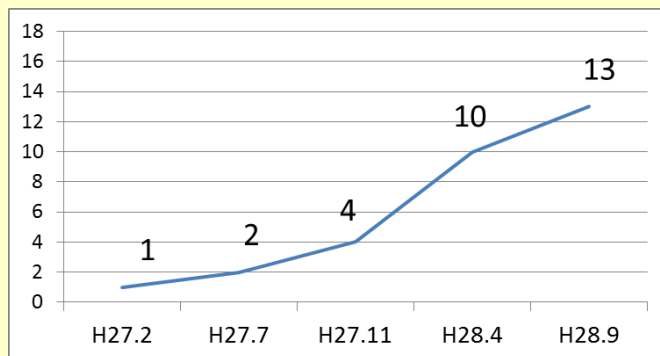
【目 的】公共交通へのアクセスが不便な地域において、利便性の向上を図るとともに公共交通の利用を促進するため

【設置箇所】古川バス停、松風台バス折り返し場、鶴嶺小学校前バス停、堤坂下バス停、湘南みずきバス停、浜見平バス停、小中島・中島バス停、新田入口バス停

【使 用 料】無料

利用状況

- 社会実験中の小中島バス停付近施設及び新田入口バス停施設は、稼働率に伸び



小中島／中島バス停のサイクルアンドバスライド利用状況 (H26.8供用開始 収容台数18台)

設置場所

- 市内8箇所に計200台分の自転車ラックを設置



【現状】

- シェアサイクルに関しては、これまでの社会実験等を踏まえた考え方を策定し、関係者間で連携した実践の段階に
- サイクルアンドバスライドは、26年度に3箇所拡充し、利用者を伸ばしている。
- ちがさきヴェロ・フェスティバル自転車祭は、今年で5回目と実績を重ねてきた。

【課題】

- 超高齢社会の進展を背景として、健康づくりに着目した取り組みの展開がより求められてくるのでは（現状未着手）
- イベントに関しては、一過性のものではなく、より地域に浸透していくような考え方や工夫等が今後必要では など